

第61回水工学講演会において研究成果を発表しました (2017/3/15-17)

テーマ：水工学講演会
場所：九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市）

2017年3月15日(水)～17日(金)に、土木学会水工学委員会主催の第61回水工学講演会が開催され、災害科学国際研究所からは林晃大助手（寄附研究部門）が参加しました。

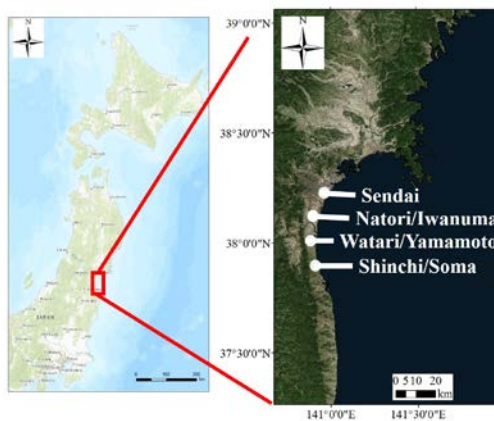
水工学講演会は、日本における水工学の最も権威のある講演会として、水災害、XバンドMPレーダ、降雨予測、全球スケールでの大気水循環などのトピックを含む、水理学・水文学、河川工学、河川環境等、非常に幅広い諸問題に関する発表・討議を行います。

本講演会では以下に示す、林晃大助手の研究成果が発表されました。内容は、東日本大震災において津波による被害を受けた仙台平野沿岸域の建物および海岸林を対象に、海岸林の存在が建物被害程度へ及ぼす正負双方を含む影響を検討するために、建物被災区分と海岸林の林帯幅との関係性を評価したものです。結果として、海岸林の林帯幅が広く確保された地域の木造建物の被災区分は、海岸林が広く確保されていなかった地域の木造建物の被災区分と比較して軽度であること、そしてその相関関係にも有意なものが存在することを明らかにしました。以上の成果は土木学会論文集B1（水工学）、Vol.73、No.4に掲載されます。

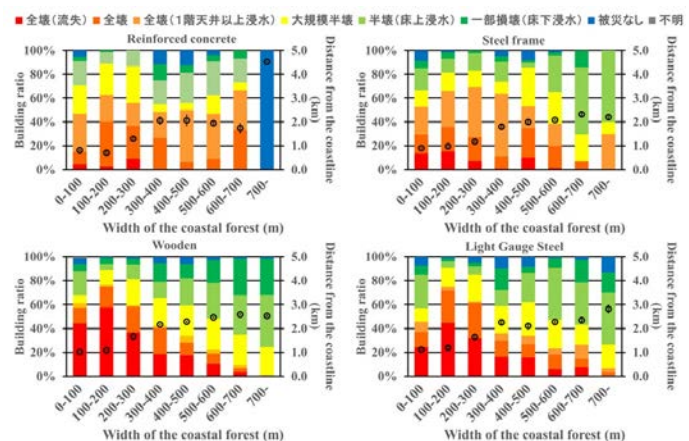
林晃大、山下啓、今村文彦：

（下線は研究所構成員）

『東日本大震災の建物被害実績に基づく海岸林の建物被害程度への影響に関する研究』



対象地域



海岸林の林帯幅に応じた建物の被災区分

文責：林晃大（寄附研究部門）